鳥取の民工芸品を訪ねて

たくみ工芸店の「木彫人形十二支」（1体840円）

砂丘、カニ、漫画…、全て鳥取県の特長を表すキーワードですが、実は民工芸品もその一つ。この春は、美しさと使いやすさを兼ね備え、暮らしに温かみを添える逸品との出合いを楽しんでみませんか。

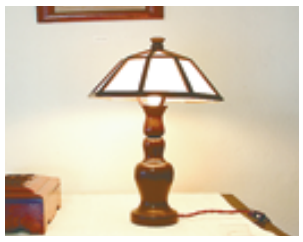
アクセス／電車…JR名古屋→（新幹線）→JR姫路→（スーパーはくと）→JR鳥取（約3時間20分）
車…一宮IC→（名神高速道路→中国自動車道）→佐用JCT→（鳥取自動車道）→鳥取IC（約340km）

地元の湯葉を使った、岩井窯の「ゆば丼」（1100円）

鳥取駅から始まる「鳥取民藝」探訪

鳥取の民工芸品との出合いを楽しむ上で、予備知識として持っておきたいのが吉田璋也（しょうや）のこと。吉田は医師として働く傍ら、思想家・柳宗悦（むねよし）らが始めた「民藝運動」を鳥取で実践。プロデューサー的立場で陶器や木工、織物などの作り手を指導し、数々の手仕事を全国に広めた「鳥取民藝」のキーパーソンといえます。

「鳥取民藝美術館」は、1949（昭和24）年に吉田が開設した、今回の出発点にふさわしい場所。全国初の新作民芸窯となった牛ノ戸焼（鳥取市河原町）の古作品など鳥取だけでなく、世界各国の民工芸品は文字通り必見です。



（写真右上から時計回りに）鳥取民藝美術館の展示物。入館料500円／300～500工程を経て作られる、万年筆博士のオーダーメード万年筆（5万円～）／民藝館通りの案内板／たくみ割烹店の昼のメニュー「鳥取和牛みそ煮込カレー」（1050円、4月以降1080円）

同館の建つ通りは「民藝館通り」と呼ばれ、同じく土蔵作りの建物が連なります。すぐ隣は「鳥取たくみ工芸店」。普段使いの器や道具がそろう日本初の民芸店で、2軒隣の「たくみ割烹店」では鳥取和牛など地元食材が民芸の器で味わえます。共に吉田ゆかりの店で「民芸品は暮らしの中で役立ち、暮らしを美しくする物であるべき」との意志が今も受け継がれています。

現代の工芸品に触れるなら民藝館通りの角を曲がってすぐの「万年筆博士」へ。オーダーメード万年筆の専門店で、全て手作りで1本ずつ仕上げるため、完成までに約1年。全国から注文が引きも切らない名店です。

窯元で、湯宿で、民工芸品に触れる

伝統的な物から若い作り手による物まで、鳥取県内には、約30軒の窯元があるといいます。向かったのは鳥取市に隣接する岩美町の窯元。30分ほど車を走らせた山あいに、赤瓦の屋根が目を引く木造建築が見えてきます。ここは、1971（昭和46）年に開窯の「クラフト館　岩井窯」。当主の山本教行さんは、何と高校生の時に吉田璋也の民藝運動を手伝った経験があり、その影響で陶芸家を志したのだそう。手掛けた器の美しさと親しみは言わずもがなで、例えば土鍋は、「料理研究家の栗原はるみさんも愛用されています」（山本さん）。敷地内には、作品展示販売室や資料館の他、窯の器で地元食材を生かした料理を提供するレストランも。タイミング次第では、鳥取の民工芸品の逸話が聞けるかもしれません。

今回は、滞在先でも民工芸品にこだわってみましょう。開湯1200年、山陰最古の岩井温泉にある湯宿「岩井屋」（岩美町）のロビーのいすやコーヒーカップは、鳥取の民工芸品。そして明かりをともすのは、吉田璋也がデザインしたランプです。同温泉の名湯を堪能した後、もし「印象に残ったのは鳥取の民工芸品だけ？」と思っても安心を。同宿スタッフの山田耕平さんが話していました。「鳥取の民工芸品に触れて『美しい暮らし』を想像する。あくせくした日常ではできないぜいたくですよね」

岩井屋の大浴場。湯は源泉かけ流し（写真上）。岩井窯の器の数々。対面販売のみながら、年間で4000人以上、9割が鳥取県外から訪れる（同下）

とっとりTOPICS

「砂の美術館　第7期展示」

世界初の砂像展示専門施設「砂の美術館」では、4月19日(土)から第7期展示「砂で世界旅行・ロシア編」がスタート。「帝国の激動の歴史と芸術の都を訪ねて」をテーマに、壮大なスケールの砂像がお目見えします。入館料600円（小・中学生、高校生300円）。今週号に同館の入場券プレゼントあり！

写真は第6期展示の東南アジア編

「全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会」

鳥取県では今年、「全国障がい者芸術・文化祭」を7月12日(土)から11月3日(月・祝)まで3カ月以上にわたって開催します。手話を言語として認めて推進する条例を、全国で初めて制定した同県らしく「障がいを知り、共に生きる」が大会テーマになっています。障害のある人もない人も一緒に楽しめる「アートの祭典」に、ぜひ注目を！

同祭のマスコットキャラクター

問い合わせ ふるさと鳥取県産業・観光センター　住所／中区栄4・1・1　中日ビル4階　電話／052・262・5411　http://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/

中日新聞社発行「ショッパー」掲載（2014年3月27日号）